

琉球大学学術リポジトリ

幻の沖縄島産ハマグリ類の謎を探る

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-06-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢敷, 彩子, 今井, 秀行, 山口, 正士 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/663

幻の沖縄島産ハマグリ類の謎を探る
(Mystery of the extinct Asian hard clam in Okinawa Island)

矢敷彩子¹・今井秀行²・山口正士³ (Ayako Yashiki, Hideyuki Imai
and Masashi Yamaguchi)

¹琉球大学理工学研究科,²琉球大学理学部,³宮崎県日向市

琉球列島沿岸は、熱帯性の生物が分布し、多様性が高いインド・西太平洋（海洋生物）地理区に含まれる。その砂浜や干潟の潮間帯には食用となる貝類が多数生息している。沖縄本島には、東南アジア及び中国大陸・日本に広く分布しているハマグリ類（genus *Meretrix*）は生息しないものと考えられてきた。しかし、2006年に沖縄島の南城市馬天港付近でハマグリ類（*Meretrix* sp.）の死殻が大量に発見されたこと、本島内各地の遺跡や貝塚から殻が出土していることから、かつて沖縄島にハマグリ類が生息し食用にされていたことは明らかである。本研究では、「馬天のハマグリ類は何者で、いつ絶滅したのか？」を明らかにするために、沖縄本島の周辺各地に生息するハマグリ類と馬天のハマグリの間で形態を比較し位置づけを試みた。

形態解析には、ハマグリ類の殻長/殻幅の比を用いた。比較対象とした種類は、日本に生息するハマグリ *M. lusoria*、チョウセンハマグリ *M. lamarckii*、西表島に生息する *Meretrix* sp. 1、首里城貝塚から出土した *Meretrix* sp. 2、台湾に生息する *Meretrix* sp. 3 とした。形態解析の結果、馬天のハマグリは首里城貝塚から出土した *Meretrix* sp. 2 に近く、おそらく同種であると考えられた。

旧佐敷町出身の地元住民への聞き取り調査をおこなった結果、馬天のハマグリ類はキルンという地方名で呼ばれていたこと、そして佐敷村史、町史などの文献調査より、琉球王朝時代には首里城王府に上納され「キルングユー（御用）」と言われていたこと、1930年代より有明海からハマグリを移植放流したことがわかった。また、戦前から最近までの約60年間の馬天港の変化を空中写真から読み取った結果、戦前の馬天港には現在見られる築島や砂州が無く、白い遠浅の砂浜であったこと、戦後アメリカ軍の港湾基地建設により環境が劇的に改変されたことがわかった。馬天のハマグリ（キルンハマグリ）の絶滅の原因は諸説あげられているが、現在のところ、戦後のアメリカ軍による馬天のキルンハマグリ類の生息場所の徹底的な破壊が一番の原因でないかと考えられた。

キルンハマグリは、ハマグリ、チョウセンハマグリ、西表の *Meretrix* sp. 1 と異なる（移入種であるシナハマグリを除けば）日本における第4のハマグリ類である可能性があるが、すでに地域絶滅している。この種の位置づけについては、東南アジアを含む熱帯地域の多くのハマグリ類との比較をした上で論じることが必要であると考えられる。